



こんにちは
ハナ・イェイツ
外国語指導助手 (ALT)
です

茶 道



初めて抹茶を飲む子供たち

日本に来る前に、クラスの子供たちと約束しました。ご存じの方もいると思いますが、私は五條に来る前は6年間英国の小学校で教えていました。同じクラスを3年間受け持ったので、この子供たちとはとても親密な関係でした。私が日本に行くことを告げると、みんなはとても動揺したようです。もし私が日本に2年いたら、自分たちが中学校(11歳から)になるまでには、もう会うことができないとわかったからです。それで、わたしが日本に2年以上いることになるなら、みんなが小学校を卒業するまでに必ず会いに来ると約束したのです。

この夏私はその約束を果たしました！ 私は子供たちが卒業するまでに、彼らに会いに行けたのです。私は100円ショップで買ったいろいろな物を詰め込んだ大きな包みと、それから子供たちに飲ませてあげる「抹茶」を持って行きました。私は五條でお茶を習っていたのでちょっとした茶道のまねごとをすることができました。

校舎の中に小さな部屋を借りました。そこで私は子供たちに入り口では、靴を脱ぐことを教えました。子供たちは静かに部屋に入ってきます。私は座り方を教え、それから日本のお菓子を渡しました。そしてお茶をたてました。次に最初の「実験台」の子供に茶わんを渡します。(その子はお辞儀をしてももちろん「オテマエ、チョウダイイタシマス」と言わなければなりません!)



6年生になった子供たち

子供たちは全員、お茶をたて、次の人にそれを出すという体験をすることができました。驚いたことに、二人を除いて全員全部飲みほし、味も気に入ったみたいです。

私が初めて「抹茶」を飲んだ時はとてもまずいと思ったのですが。子供たちは、最後の一滴までズズズッと「音を立てて飲みほさなければならない」ことをとても面白いと思ったようです。音を立てるのは英国で若い人が学ぶ食事のエチケットに全く反するからです。放課後、子供を迎えに来た保護者や何人かの先生方にも招待しました。みんなお茶の奇妙な味に大いに驚いたようです。緑茶は英国でも健康的な飲み物として最近、人気が高まっています。たぶん、きっと近い将来日本の茶道も人気が出てくるのではないのでしょうか。

*この記事は、ALTの書いた英文を訳したものです。
英語版は中央公民館にあります。